



身近な自然史の小ネタ

No. 4

最新の下関の自然史に関することや当館が得た標本のこと、新たな標本作成方法や採集道具の作り方などをわかりやすく、簡単に紹介した展示の説明用のチラシです。

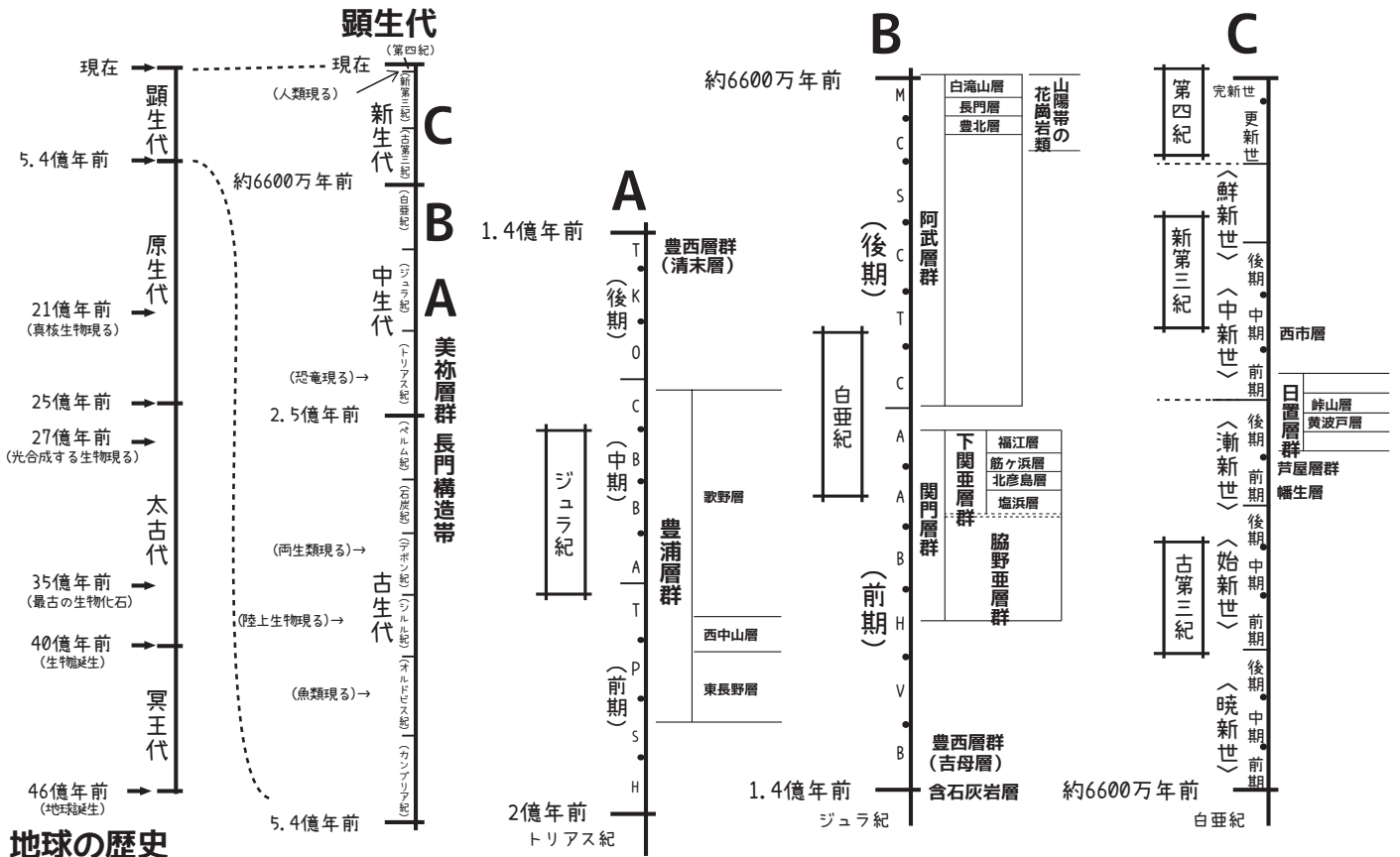
発行：令和元年12月20日

下関市豊田町の古生代のチャート

下関市豊田町の長門構造帯からは古生代ペルム紀（約3億年前）の岩石が産出します。そして、その中には放散虫やカイメン動物の死骸によってできた石であるチャートと呼ばれる石が見つかります。この石からはこれまで放散虫などの化石が見つかっています。下関市から出る化石で一番古いのはこのチャートからでる放散虫などの化石なのです。長門構造帯は、山口県西部大津郡三隅町から下関市小月にかけて断続的に5地域に分かれて露出し、北から南へ、三隅地域、台地域、西市地域、豊ヶ岳地域および小月地域と呼ばれています。



豊田町豊ヶ岳のチャートの露頭



※地質年代区分や各地層の時代区分については主に西村ほか（2012）に従い、豊浦層群についてはNakada・Matsuoka(2011)を参考にして、下関に関連する部分のみを中心に作図した。